

令和5年度 河川魚類等調査・採集委託 報告書 (概要版)

調査の概要

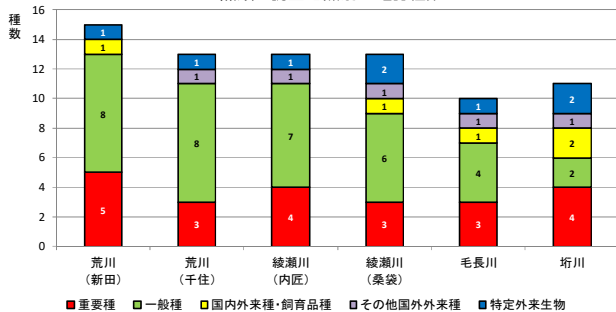
【目的】 足立区内の河川に生息する魚類等の生物の把握。
 【調査地点】 足立区内の4河川6地点。(右図参照)
 【方法】 投網、タモ網、小型定置網、刺網、カゴ網などを用いて、魚類の任意採集を実施しました。綾瀬川の2地点では、底生動物の採集も実施しました。



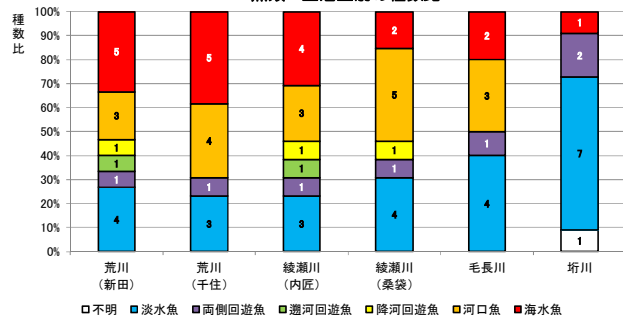
結果の概要

- 合計8目14科31種の魚類が確認されました。
- 重要種(環境省RLなどの該当種)は9魚種でした。
- 国外外来種は5魚種(このうち3魚種は特定外来生物)、国内外来種は4魚種でした。
- 確認魚種の最も多かった地点は荒川(新田三丁目地先)で15種、最も少なかった地点は毛長川で10種でした。
- 確認魚種の生活型は、坊川では淡水魚の占める割合が高かったですが、ほかは様々なタイプの生活型がみられました。
- 底生動物(綾瀬川のみ実施)は56種類が確認され、5種が重要種、6種が国外外来種(うち1種が特定外来生物)に該当しました。

魚類 調査地点別の確認種数



魚類 生活型別の種数比



毛長川 (ふれあい橋上流付近)

9月13日/14日 晴れ/晴れ
 【環境】 本調査地点中、最も上流に位置します。直立護岸で単調な環境となっています。
 【確認種】 タイリクバラタナゴ、オйкаワ、スズキ、マハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ 計10種



綾瀬川 (桑袋ピオトープ公園付近)

7月4日/5日 晴れ/曇り 10月12日/13日 晴れ/晴れ
 【環境】 直立護岸となっていて、ヨシなどの抽水植物はみられません。干潮時には一部で泥干潟が干出します。
 【確認種】 ニホンウナギ、コイ(飼育型)、ナマス、チャンネルキャットフィッシュ、ボラ、スズキ、ブルーギル、マハゼ、アシシロハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ、ウロハゼ、ヒリノゴ 計13種
 (底生動物) ヒメタニシ、カワヒバリガイ、ヌマガイ、テナガエビ、クロベンケイガニ、アメンボなど 計37種



坊川 (葛西用水合流地点)

9月14日/15日 晴れ/曇り
 【環境】 両岸とも直立護岸となっていて、ヨシなどの抽水植物はみられません。
 【確認種】 カライワシ、ゲンゴロウフナ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、スゴモロコ、カダヤシ、ブルーギル、アマチチブ、トウヨシノボリ類、ウキゴリ 計11種



荒川 (新田三丁目地先)

9月13日/14日 晴れ/晴れ
 【環境】 ワンドが造成されていて、抽水植物も多く生育しています。干潮時には泥干潟が形成されます。
 【確認種】 ニホンウナギ、ハス、マルタ、モツゴ、ニゴイ、ボラ、カダヤシ、マゴチ、スズキ、キチヌ、マハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ 計15種



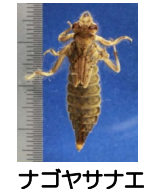
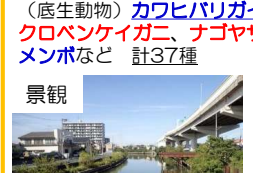
荒川 (千住新橋緑地)

9月14日/15日 晴れ/晴れ
 【環境】 河岸にワンドが整備されています。抽水植物が多く生育していて、干潮時には泥干潟もみられます。
 【確認種】 コノシロ、タイリクバラタナゴ、ニゴイ、ボラ、カダヤシ、スズキ、シマイサキ、マハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ、ウロハゼ 計13種



綾瀬川 (内匠橋上流付近)

7月4日/5日 晴れ/曇り 10月12日/13日 晴れ/晴れ
 【環境】 直立護岸となっていますが、一部で泥の堆積と植物の生育がみられます。干潮時には一部で泥干潟が干出します。
 【確認種】 ニホンウナギ、コイ(飼育型)、マルタ、ニゴイ、ボラ、カダヤシ、マゴチ、スズキ、シマイサキ、マハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ、ウロハゼ 計13種
 (底生動物) カワヒバリガイ、テナガエビ、クロベンケイガニ、ナゴヤサナエ、トガリアメンボなど 計37種

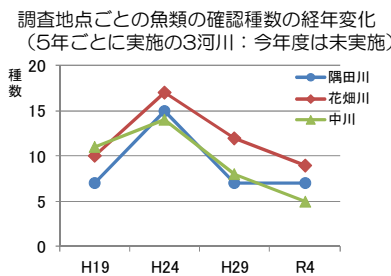
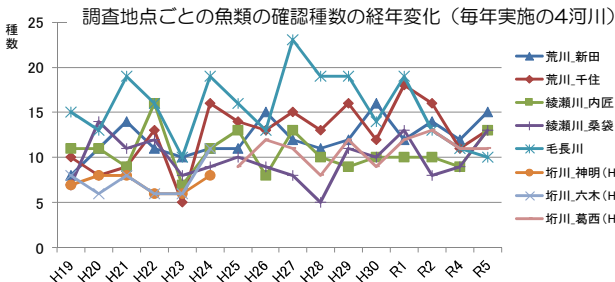
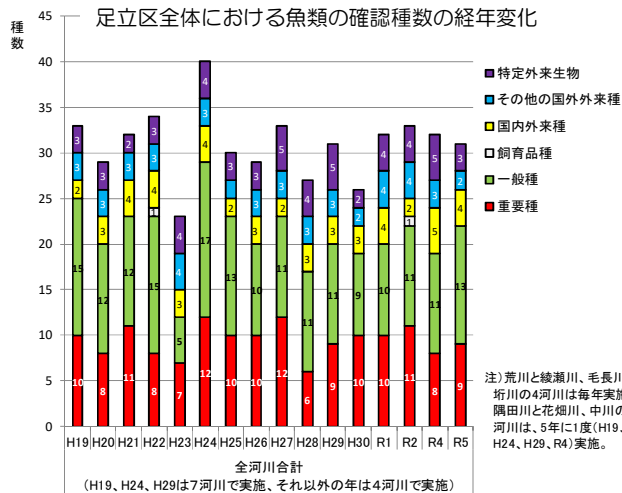


橙色枠の地点: 様々なタイプの生活型が多い 水色枠の地点: 淡水魚の生活型が多い
 赤色の種: 重要種 青色の種: 国外外来種 (下線は特定外来生物を示す) 紫色の種: 国内外来種・飼育品種

令和5年度 河川魚類等調査・採集委託 報告書（概要版）

経年変化

- 平成19年度から今年度までの調査で合計10目25科56種の魚類が確認されています。
- 重要種はこれまで12魚種が確認されていて、毎年6~12種の間で推移しています。
- 特定外来生物はこれまで6魚種が確認されていて、毎年2~5種の間で推移しています。
- 毛長川は、以前は多様な環境がみられ多くの魚種が確認されていましたが、近年は浚渫工事の影響により、やや減少しました。
- 垢川は、汽水の影響を受けにくいことと、単調な環境であることからどの年度も確認種数は少ない傾向があります。
- 汽水域の荒川と綾瀬川は、その年の出水などの影響により、確認種数が変動することが考えられます。例えば、出水時は淡水魚の生活型の種が多く確認されることがあります。



トピック

新しい外来種が確認されています。

- 近年各地で分布を拡大している外来種が、足立区でも確認されています。
- こうした外来種が増える生態系に悪い影響を与えてしまうので、注意深く監視していく必要があります。



ミナトオウギガニ → 今年度荒川で魚類調査時に確認されました。2006年に名古屋港で初めて確認されて以降、東京湾などで確認されている種。



↑チュウゴクスジエビ 今年度毛長川で魚類調査時に確認されました。2010年に静岡県で発見されて以降、国内での分布域は広がっています。

まとめ

- 足立区には、さまざまな環境の河川がみられ、それぞれの河川に特徴のある魚類相が形成されています。
- 調査河川は、海域との連続性は高いですが、周辺水域（池・湿地等の氾濫原）との連続性は低いといえます。今後、より多くの生きものが棲める河川にするためには、池や湿地を再生するような取り組みを進めることが重要となります。
- 外来種対策としては、ペットなどの飼育生物を野外に放さないことが、特に重要となります。



「新田わくわく水辺広場」（荒川河川敷）に造成された池。貴重な生態環境となっています。綾瀬川の護岸部の植生。クロベンケイガニ等の生態環境となっています。

令和5年度調査 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	荒川		綾瀬川		毛長川		垢川		生活型	重要種	外来種	
				新田3丁目付近	千住新橋緑地わんど広場	内匠橋上流付近	桑袋ビオトープ公園付近	ふれあいい橋上流付近	葛西用水合流付近						
				9月	9月	7月	10月	7月	10月	9月	9月				
1	カラウシ	カラウシ	カラウシ								1	海水			
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	1		1		1				降河	国:EN,都:VU		
3	ニシン	ニシン	コソロ		6							海水			
4	コイ	コイ	コイ(飼育型)			17	2	1				淡水		国外	
5			ゲンゴロウフナ								11	淡水	国:EN	国内	
6			キンギョ								3	淡水	都:DD		
7			タイリクバラナダ		1						1	淡水	国:VU	国外	
8			ハス	2								淡水	都:DD	国内	
9			オイカワ								1	淡水	都:DD		
10			マルタ	1		1						遊河	都:留		
11			モツゴ	2							15	淡水			
12			ニゴイ	1	1		3					淡水	都:NT		
13			スゴモロ								1	淡水	国:VU	国内	
14	ナマス	ナマス	ナマス					1				淡水		国内	
15		アザガサ	チャネルキョウトフシ				1	1				淡水		特定	
16	ホウ	ホウ	ホウ	8	9	12	1	1	3			海水			
17	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	6	7		6				7	21	淡水	特定	
18	ススキ	コナ	ススキ	1			1					海水			
19		ススキ	ススキ	3	3	2				3	1	海水			
20		サンフィッシュ	ブルーギル							2		29	淡水	特定	
21	タイ	キチヌ	キチヌ	1								海水			
22		シマイサキ	シマイサキ		1		1					海水			
23		マハゼ	マハゼ	9	41	4	6	10	3	4		河口			
24		アジロハゼ	アジロハゼ	11	5				1	2		河口	都:NT		
25		アハハゼ	アハハゼ	11	12							海水			
26		シモフリシマハゼ	シモフリシマハゼ	1	13		3	2	2	3		河口			
27		ヌマチチブ	ヌマチチブ	4	15	7	1	25	2	13	9	両側	都:留		
28		トクヨシホリ類	トクヨシホリ類								5	不明	都:CR/NT		
29		ウロハゼ	ウロハゼ		1		1		2			河口			
30		ウキヨリ	ウキヨリ								1	両側	都:NT		
31		ビリンゴ	ビリンゴ				2					河口			
合計				8目14科31種	19種	13種	7種	10種	7種	10種	10種	11種	-	9種	9種

注) 1. 種名・分類は、『河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和5年度生物リスト 河川環境データベース』(国土交通省、令和5年)に準拠しています。
 2. 表中の数字は確認個体数を示しています。
 3. 生活型 加納ほか(2000)を参考に、以下のとおり区分しています。
 淡水:淡水魚(生活史を淡水域で完結する種) 遊河:遊河回遊魚(産卵のために河川に遡上する種)
 降河:降河回遊魚(産卵のために海へ下る種) 両側:両側回遊魚(生活史の一時を海域で過ごす種)
 河口:河口魚(河口域で全生活史をほぼ完結する種) 海水:海水魚(海域で産卵を行う種であり、基本的には河川淡水域では成長しない。)

4. **重要種(赤色で示した種)** なお、国内外来種に該当する種は()内に示し、集計から外しています。
 国:EN...環境省RDB(2020)の絶滅危惧B類、 国:VU...環境省RDB(2020)の絶滅危惧II類、 国:DD...環境省RDB(2020)の情報不足
 都:CR...東京都RDB(2023)区部における絶滅危惧IA類、 都:VU...東京都RDB(2023)区部における絶滅危惧II類、
 都:NT...東京都RDB(2023)区部における準絶滅危惧、 都:DD...東京都RDB(2023)区部における情報不足、
 都:留...東京都RDB(2023)区部における留意種

5. **国外外来種(青色で示した種)** 特定...特定外来生物、 国外...特定外来生物以外の国外外来種

6. **国内外来種または飼育品種(紫色で示した種)** 国内...国内外来種(国内の他の地域から人為的に移入された種)、品種...飼育品種

令和5年度調査 底生動物確認種一覧(綾瀬川12地点で実施)

調査地点	確認種	合計
内匠橋上流付近	ミマサカジーカイメン、シマミズウドンダ(国外)、サカマキガイ(国外)、カワヒバリガイ(特定)、ヤマトシジミ(国:NT,都:DD)、カワゴカイ属、ウチワミズ属、トガリミズミズ属、ヨコレミズミズ、モトムラユリミズ、フトゲユリミズ、ユリミズ、イトミズ亜科、ミズミズ科、ハハヒロビル、ヌマビル、ミズムシ(甲)、ミソレヌマエビ、シナヌマエビ(国外)、テナガエビ(都:留)、クロベンケイガニ(都:留)、モクズガニ(都:留)、ナゴヤサナエ(国:NT,都:DD)、オオヤマトンボ、アメンボ、ヒメアメンボ、トガリアメンボ(国外)、ミズカメムシ、ケンカタビロアメンボ、ムネカクトビケラ属、オルモシヤ属、Yamatotipula亜属、ハマダラチャウバエ属、ユスリカ属、カマガタユスリカ属、ホソユスリカ属、ヒゲユスリカ属	37種類
桑袋ビオトープ公園付近	アナンデルカイメン、ミマサカジーカイメン、アメリカナミウスズムシ(国外)、ヒメタニシ、カワヒバリガイ(特定)、ヌマガイ、ヤマトシジミ(国:NT,都:DD)、シジミ属、スエヒロミズ属、エラオイミズミズ、ウチワミズ属、トガリミズミズ属、フクロイトミズ、エラミズ、ヒメイトミズ属、モトムラユリミズ、ユリミズ、イトミズ亜科、ミズミズ科、アタマビル、ミソレヌマエビ、シナヌマエビ(国外)、テナガエビ(都:留)、クロベンケイガニ(都:留)、ウデマギリコカゲロウ、アメンボ、ムネカクトビケラ属、ツヤユスリカ属、ユスリカ属、ホソユスリカ属、セロリユスリカ属、コガタユスリカ属、ハモンユスリカ属、ヒゲユスリカ属、ユスリカ亜科、ミギワバエ科、チャドロコケムシ	37種類

重要種(赤色で示した種) 国:NT...環境省RDB(2020)の準絶滅危惧
 都:DD...東京都RDB(2023)区部における情報不足、 都:留...東京都RDB(2023)区部における留意種
外来種(青色で示した種) 特定...特定外来生物、 国外...特定外来生物以外の国外外来種